

減らそう犯罪通信

平成17年12月号

発行・編集

広島県警察本部
減らそう犯罪安全なまちづくり推進室
〒730-8507
広島市中区基町9-42
TEL 082(228)0110
FAX 082(222)7902

統計資料
1 2 3 4 5 6 7

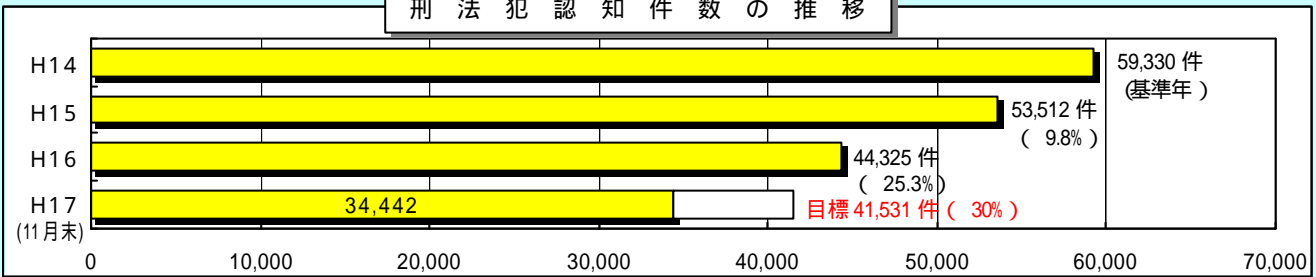
広島県内の犯罪情勢

目標：刑法犯認知件数を3年間で3割削減
(H14 3割減 H17)

毎月、下表でH14各月末の認知件数との比較を表していきます。

区分	刑法犯認知件数	身近な犯罪	身近な犯罪の内訳(抜粋)									詐欺
			自動車盗	オートバイ盗	自転車盗	ひったくり	車上狙い	自販機狙い	侵入強盗	侵入盗	性犯罪	
H17.1~11	34,442	21,250	258	2,023	6,931	440	2,557	835	22	3,327	276	2,100
H14.1~11	54,672	40,056	394	5,118	10,081	713	4,823	5,641	39	6,476	329	938
増減(%)	-37.0	-46.9	-34.5	-60.5	-31.2	-38.3	-47.0	-85.2	-43.6	-48.6	-16.1	+123.9

刑法犯認知件数の推移



お知らせ

地域まるごと子ども見守り緊急アピール

12月2日、子どもの犯罪被害防止を願って、知事・教育長・警察本部長名で、地域での見守りと子どもの危険回避能力の向上を柱とする緊急アピールを発表しました。

国家公安委員会委員長 ボランティアを激励

12月14日、杓掛大臣が広島市安芸区を訪れ、児童被害の現場に献花を行い、子どもの見守り活動を行うボランティアの方々を激励されました。



安佐南区で子ども“みまもり”活動宣言地区

モデル事業を展開中の広島市安佐南区では、12月14日から、右のボード140枚を全小・中学校、公民館、公園等に掲げ、その地区が子どもの“みまもり”活動実施地区であることを宣言して、子どもの被害防止を図っています。



街頭防犯カメラシステム運用開始

誰もが安心して楽しめる安全な歓楽街を目指して、県警では、流川・薬研堀地区に防犯カメラ30台を設置し、12月9日から運用を開始しました。

犯罪情報官インフォメーション



みんなで守ろう! 子どもの安全

全国的に子どもが被害を受ける犯罪が増えるなど、子どもを取り巻く環境は悪化しています。こうした中、県内でも不審者による声かけ事案等も多発しています。

12月6日から、県警ホームページで不審者による子ども(中学生以下)への声かけ事案情報等の掲載を始めました。市区町別で掲載していますので、ぜひ地域の自主防犯活動などに活用してください。また県警メールマガジンでも、週1回情報を配信していますので、ご利用ください。

わしらに続け!



協定に基づき通報・検挙 ~中国新聞・NHK~

県警では、県内を配達・集金等で巡回する事業者と事件・事故を目撃したときの通報等に関する協定を締結しています。このほど、呉市音戸町では、中国新聞販売員が金庫破

りの容疑車両を、府中町ではNHK地域スタッフがひき逃げ車両を通報し、それぞれ容疑者の検挙に至りました。「犯罪は絶対に許さない!」多くの目がまちを見守っているのです。



今すぐアクセス! 県警ホームページ <http://www.police.pref.hiroshima.jp/>

ひろしま犯罪情報ダイヤル 082-223-3746 ふくやま犯罪情報ダイヤル 084-921-3746

第4回 広島県「減らそう犯罪」推進会議の開催結果

～平成18年からの「減らそう犯罪」県民総ぐるみ運動の展開方針を決定～

去る11月21日(月),第4回広島県「減らそう犯罪」推進会議が開催され,県民,事業者,防犯ボランティア,行政機関等の代表の委員36人によって意見交換が行われ,来年からの運動の展開方針や目標が決定されました。



委員からのご意見

児玉委員 (日本自動販売協会)

自販機狙いが非常に少なくなったが,ドリルでも開けられない錠の設置など犯罪を起こしにくい状況にしたことが良かったのでは...

山本委員 (学生代表)

未来を作っていく子ども達自身の中に「どうすれば被害を防げるか」という意識を高めていくことが大切。

吉村委員 (県環境生活部長)

一人ひとりが自分は何ができるかというところに持っていくことで,この運動が定着してくれば非常に有益。

細田委員 (日本ガーディアン・エンジェルズ)

「機会があれば防犯活動に参加したい」という多くの人のために,「機会」を用意していく必要がある。できることから始めることも大切。

上田委員 (青少年育成県民会議)

挨拶は犯罪を減らす活動の原点。ラジオ番組を通じて各地で活躍中のボランティアを紹介しているが,その多さに手ごたえを感じる。

高濱委員 (県老人クラブ連合会)

地域に元気なお年寄りを増やしたい。登下校の子どもに声をかけたりして,子どもと顔なじみになれるよう各地で取り組んでいる。

連石委員 (県PTA連合会)

声かけ事案等の発生情報を地域で共有することが必要。散歩や掃除の時間を下校時に合わせたり,他の地域団体の活動との連携も効果的。

小川委員 (愛知学院大学教授)

運動の成果はもっと広報すべき。運動の裾野を広げるために,地域で行われている防犯ボランティア活動の内容と効果を伝えては。

青木委員 (中国新聞社)

体感治安の悪化に直結するひったくりや自転車盗などの目的を絞った目標設定も効果的では。キャンペーン記事も運動させていきたい。

野田委員 (県地域女性団体連絡協議会)

挨拶運動は子どもと参加者同士が顔なじみになれる。多くの団体が連携して安全な地域づくりを進めていきたい。

宇田副会長 (県防犯連合会)

大切なのは,まずわが身を守るという意識,それを地域に広げること。安全・安心は「住みたい広島県づくり」につながる。

平成18年からの「減らそう犯罪」県民総ぐるみ運動の展開方針



運動目標

だれもが「安全・安心」を実感できる
広島県の実現

行動目標 (犯罪抑制目標)

今後5年でピーク時の半減を目指す

